

会 議 録				
平成26年度第1回 社会教育委員の会議	日 時	平成26年4月25日(金) 午前9時30分～11時00分	場 所	小金井市第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	中村議長、原嶋副議長 樋口、石田、樹、本多、倉持、小山田、清水 各委員		
	その他 事務局	西田生涯学習部長 石原生涯学習課長、上石図書館長、前島公民館長		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
<p>1 協議事項</p> <p>(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について</p> <p>(2) 平成26年度視察研修について</p> <p>(3) その他</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成26年度予算概要について</p> <p>(2) 平成26年度第1回市議会報告</p> <p>(3) 平成26年度スポーツ関係団体への補助金交付について</p> <p>(4) 貫井北センターの開設について</p> <p>(5) 図書館の蔵書点検について</p> <p>(6) その他</p>				
<p>(西田生涯学習部長)</p> <p>では、開会に先立ち、議長のお許しを得て、発言をさせていただきたいと思う。</p> <p>平成26年4月1日付で生涯学習部の管理職の異動があったので、報告する。生涯学習課長兼文化財係長事務取扱に前環境部環境政策課長の石原弘一が転任し、課長職となる図書館長に前図書館長補佐の上石弘美が昇任、昇格の上、配置され、同じく課長職である公民館長兼事業係長事務取扱に前学校教育部学務課長の前島賢が配置替えとなった。また、事業終了に伴って国体推進担当課長の職が廃止され、図書館長が新たに配置されたことにより、私の課長職兼職は解除となり、あわせて図書館長補佐の職も廃止となった。非常に大きな動きがあったので、ご紹介をさせていただいた。</p> <p>では、新任課長の挨拶を一言ずつ申し上げたいと思う。石原課長から願います。</p>				

(石原生涯学習課長)

このたび、生涯学習課長になった石原と申す。どうぞよろしく願います。

(上石図書館長)

図書館長を命じられた上石弘美だ。補佐の間、1年間お世話になった。未熟であるが、今後もまたよろしく願います。

(前島公民館長)

では、改めておはよう。学務課長から、4月1日付で公民館長を拝命した。事業係長も兼務という形だが、学校教育から社会教育のほうへということで、また新たな気持ちで精一杯頑張らせていただきたいと思います。よろしく願います。

(西田生涯学習部長)

なお、これまで皆様にお世話になった前生涯学習課長兼文化財係長事務取扱の天野文隆は企画財政部広報秘書課長に、前公民館長兼事業係長事務取扱の大関勝広は環境部環境政策課長に出向となった。

以上である。生涯学習部の部長以下、管理職全員、何らかの変化が生じた大きな異動であったが、今年度もよろしく願います。

(中村議長)

ありがとうございます。これからも新しい方々がお入りになられたということで、公民携えて協働の精神にのっとり円滑に、かつ的確な形でいろいろな審議を進めていきたいと思うので、皆様方のご協力のほどよろしく願います。

それでは、事務局のほうから、配付資料について、ご案内いただけるか。

(石原生涯学習課長)

基本的には、本日の会議に直接かかわる資料としては、第1回社会教育委員の会議の次第と、それから、「第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について(依頼)」という公民館運営審議会、図書館協議会宛てに送付を予定している依頼文の案である。それから、封筒だとか、そちらの『月刊こうみんかん』等々については、各委員のほうに配付させていただいているので、配付をもって説明にかえさせていただきたいと思う。よろしく願います。

(中村議長)

ありがとうございます。それと、つけ加えて、今日は宗像委員が公務のためご欠席ということで、今日は9名で開催させていただくのでよろしく願います。

それから、あと、こちらの第2次小金井市生涯学習推進計画、これは冊子等を持ってきていただいているだろうか。これは今日、使うので机上のほうに出していただくようお願いする。

今日、式次第のほうをごらんいただきたいのだが、協議事項と報告事項があって、まず、小山田委員が早目にお仕事の関係で退席されるので、協議事項の1番から順に進めさせ

ていただく。協議事項の1として、第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査についてという、こちらから始めさせていただきます。

それに当たり、先般、小委員会が行われたので、小委員会において協議事項の1についてかなり話し合われたので、まずは原嶋副議長のほうから小委員会の報告をしていただき、それが今回、この協議事項1の協議をするに当たっての助けになると思うので、お願いしたいと思う。では、原嶋委員、お願いします。

1 協議事項

(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について

(原嶋副議長)

それでは、報告させていただきます。4月11日に、中村議長、原嶋、本多委員、倉持委員が出席していただいた。9時半から、石原課長、牛込係長も同席している。今日の話の内容になると思うが、各団体の質問事項、いわゆるアンケート調査をかけたいということで話をまず進めていった。私のほうでたたき台というのを何かないといけなかなと思って、この前の話し合いだと、図書館や公民館の審議会にまずはアンケートを打ち出してみようという話があったと思う。

課題は、次に社会教育関係の団体にどうしていくのかということも出てくるのではないかなと思うが、それらを中心に話をしたが、メール等でご案内のように、この小委員会だけでなく、多くの委員の方々がその観点でそれぞれお気づきのことがあればつくっていただいて、今日すり合わせて、作成していく方向でやっていこうではないかということになった。5月中旬には依頼文をつくって、9月30日に、後で出るが、締め切りということで各団体にはお願いする方向で鋭意つくっていかなくてはいけないのかなと思っている。これは今日のメインだと思っている。

あと、社会教育関係団体、特にスポーツ関係だ。黄金井倶楽部・体協補助金についての話があった。これは社会教育法の第13条に基づいて補助金を交付する場合、社会教育委員の会議で意見を聞いておかなければならないという形で、小委員会ではお話を承ったということだ。

次に、先般、最後のほうで、視察場所、日程について幾つか話し合いをなされていたわけだ。私のほうからも、狙いがはっきりしたほうが良い、また貴重な時間を使うのであれば、この委員会に還元する内容が望ましいとお話をさせていただいた。中村議長のほうからも、いわゆる学社融合、コミュニティスクール実施校ということで三鷹や杉並が候補地として上げてもらった。マスコミでもそういったような地区が取り沙汰されている視点で。これはまた皆さんのお考えで企画を詰めていく必要があるし、先ほど言ったように、相手校さん等々の調整もあるものだから、日程も詰めていかなくてはいけな

いとは思っている。

主にアンケート内容についてと、スポーツ関係の補助金、3つ目が視察及び日程についての話を進めさせていただいた。簡単だが、以上である。

(中村議長)

ありがとう。それでは、今の原嶋副議長からのご説明で概略おわかりいただけたかと思う。第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について、事務局のほうから事前に、今回の審議を自宅のほうでまずお考えいただいて、この場に持ち寄ればということで、事前に石原課長のほうから、メールが送られているかと思う。この各団体に対してヒアリングをするという中で、どういう観点からヒアリングするかについて、例えば定量的、数字にあらわれる場合、定量的なもの、あるいは定性的なもの、数字にあらわれないものがあるということでヒアリングをする。いろいろな方法があろうかと思うが、各委員でそのあたりのヒアリングの方法について、ご意見があれば、かねてメールでお願いしているが、ご意見を賜りたいと思うが、いかがだろうか。

それに当たっては、石原課長から送っていただいたメールの添付資料として、原嶋副議長がまだかなり時間をかけてつくっていただいた書面があるので、それは皆さん、お目通しいただいているだろうか。こちらをもとに考えていくのも1つの方法ではないかなと思うが、ただ、各委員のほうで独自のご意見等あったら、この場で遠慮なくご発言いただけたらと思う。いかがだろうか。

(樹委員)

小委員会に出られた方にもう少しお話を伺いたいのだが、いただいたメールの中で、現行計画の基本目標に沿って、現在所属している団体の立場から現行の計画の評価をしていただくというが、その下に小委員会できざま基本目標の1から4の4つの分類に評価すると評価範囲が大き過ぎるとのご意見があったというようなお話があるのだが、具体的にどういうお話があったのかということがこれではわかりづらいので、小委員会に出ている方とそれに出ていない委員との間に思考のギャップがあるのではないかなと思うので、小委員会に出られた方にもう少し、この観点についてどういう議論が行われたのかということをお教えいただきたい。

この4つの分類で評価すると評価範囲が大き過ぎるとのご意見があったとあるが、まずは、どうすればいいのか。私は、例えば自分が受ける団体だとしたら、この現行目標だけを出されて、これに対してどう思うかと聞かれても、全く答えようがないというのが現状だと思う。それに対して、現行目標が正しいものかどうかということをお聞きしたいのか、それとも、自分たちの活動が現行目標に合っているかどうかということをお聞きしたいのか、評価をしていくということなので、それぞれの団体の活動を自分で評価していく、自己評価していくということなのか、どういう観点に向かって質問していくのかということがこれを読んでいてちょっとわからなかった。小委員会でどういう意見

が交わされて、このメールになったのかというのが小委員会に出ていない委員にはちょっとわからないのではないかと思うのだが、いかがだろうか。

(倉持委員)

議論の内容を、要旨を私がつかんでいるわけではないので、自分が何を言ったかぐらいしかわからないのだがと今思ったことしかわからないのだが、まず、調査自体を、この対象としては図書館協議会と公運審、そして、社会教育委員の皆さんがそれぞれの団体に所属しているので、それぞれの自分の母体となる団体で伺ってくるといいんじゃないか。その範囲だということが1つ。つまり、広く市民に知れている社会教育団体というよりは、社会教育関係のネットワーク組織で伺うというのが1つ。

そうだとすると、この4つの基本目標というのが、やるのは難しいんじゃないかと言ったのは多分私なんだが、小金井市の生涯学習推進計画というのは、この4つは目標というよりも、いっぱいある事業のカテゴリーみたいな感じで立てられているんで、これだけ見ても、これに対していいとか、悪いとか言えないんじゃないかというような話で、今の樹委員の話で言うと、その団体の自己評価というよりは、各団体の視点から、小金井市の社会教育について意見をもらう、生涯学習について意見をもらうということだと私は理解しているが、それぞれの図書館協議会は図書館協議会の視点から、子どもの健全育成と家庭教育の状況というか、私もはっきり言って、この評価についてあまりよくわかっていないので、小委員会で何を話したかという、私が概要を説明できる感じじゃないのだが、それは本多さんとか、副議長とかのほうがおわかりかなと思うので、ここでバトンタッチしたいと思う。

(原嶋副議長)

そういうことでは、各団体の活動から照らし合わせた中で、第2次の計画をどういうふうに評価するかということが基本だと。4つの計画にかかわっていないというのが幾つかあるが、例えば体協関係だと第4項目に全てにかかわっているわけではないと思う。そうすると、実際に例えば計画があって行動していくときに、全く関係ないもので、いわゆる4つでやれと言っても現実的に動いていないわけだから、自分の担当部署だけしか答えることはできないと思う。アンケートをとられたときには。だから、自分たちに関与しているような計画があったときに、その実施はどうだったのかというところで押さえていくのかと思う。

(倉持委員)

だから、自分たちの例えばふだんの活動が、小金井市が基本目標としている4つの中の例えばどこに当てはまると思うかというようなこととか、実際に社会教育活動をしている団体の方たちが皆さん、この目標を頭に入れて何かの活動をふだんしているかという、実はこの計画そのものも知らないという市民の方がたくさんいらっしゃると思う。

私も社会教育委員になるまでは知らなかったもので、団体に所属しているからといって、

この基本目標に沿って何かをやっているというわけではないから、逆に自分たちの団体に持って帰るので、私たちは説明することができるし、どういうふうな目標を持って自分たちが今まで活動してきたのかというのを見直すことはできると思うが、そういう観点で質問を考えていくのか、これを逆に、この目標はどう思うかとか言われても、それを私たちが何か評価できるというものではないと思うので、その現場で活動している人たちが答えやすい質問を考えていかないとだめなのかなとは思っている。

(原嶋副議長)

基本、おっしゃるとおり。日ごろの各社会教育関係団体の活動の中で考えて、これに該当するところについてご意見を賜るというスタンスでよろしいかと思う。

(中村議長)

まず倉持委員から。

(倉持委員)

ちょっと違う意見だが、つまり、各団体の自己評価をいただいても、つまり、この評価というのは、次の第3次小金井市生涯学習推進計画を立てるために、現行計画の何が足りていて、何が足りないか、あるいは新たな目標なり、事業なりというのはどういうところで必要かということをも多分見出し、今まで立てた目標をどれだけ達成できたかということを知りたいという評価だとすると、しかし、その評価というのは、緻密にやるとなると全部の項目について聞かなきゃいけない。そんなのはとても無理なんじゃないかと私も思うが、4つよりももっと細かく設定されているので無理だと思うが、それぞれの団体さんがこれに照らして自分の団体はどうかというよりも、その団体の視点から、小金井市の社会教育の例えば子どもの健全育成と家庭教育への支援が足りているかみたいなのだとわからないのだが、例えばもうちょっと次の施策段階の小項目というかになると、項目自体は増えちゃうが、例えば子育て情報提供の充実という項目があって、それについて、いわゆる子育て関係の団体からしてみると充実しているか、達成できていると思うか、あるいはもっと充実させていったらいいと思うかということについて聞くのではないか。

ただ、副議長がおっしゃっていたように、自分たちはあまり関知していないというような、こういうことについてはわからないというような事業とか、計画とか、カテゴリーというのがあると思うので、その部分は未回答という感じでいいと思うんだがということかなと思ったんで、自己評価というよりは市の計画に対して、もっとこうしてほしいとか、今ここが足りないとか、そういうことかなと思っていたのだが、違っていたのか。

(樹委員)

そちらの観点をはっきりしてから質問項目を考えていかないと、雑駁な感じで投げられても、どっちの観点で考えるのかというのが全く理解できない。小委員会の内容がわか

らないので、理解できない。

(中村議長)

それは、原嶋副議長が作成していただいた書面が非常に参考になると思う。というのは、これはちょうど原嶋副議長のほうでこの推進計画をよくごらんいただいて、調布の社会教育計画と照らし合わせながら、つくっていただいたが、これの第4章について、第4章の施策の展開のこれは1節だが、そこに関して例えば公民館が青字でなっている。公民館については、公運審で議論していただくに当たって、事業内容として子供体験講座であるということに分けていただいているし、例えば図書館だったら、これは赤書きになっているが、事業内容としては読み聞かせ、ブックスタートと、こういう項目がある。この中での具体的な施策について抜き出しているわけ、これらの項目について各審議会はどうお考えになるか。この書面が非常に参考になると私は思う。こういう考え方でいいんじゃないかと。

(樹委員)

これは、図書館協議会と公民館審議会の方用ということか。

(中村議長)

これは、とりあえず公運審と図書館協議会についてはこれで網羅されているということなんだ。あと、それ以外の皆さんの各出身母体の団体に対してどういうふう聞いていくか、そこがちょっと問題にはなってくると思う。

(本多委員)

出身団体の中の方でも、この4つの項目にかかわっていると思う。私の出身団体の場合は第3節の文化事業部門、イベントに入っているが、個人的には、第2節の知的な学習活動での支援と交流の促進の方に参加していることもある。そういう意味で、項目の1カ所のアンケートだけでは、出身母体の団体の方も、個々で別の団体の所属していることがあるので、この4項目にしたことは参考になると思う。アンケートの内容をある程度ここで決めることになるが、所属の団体と的が違っていても、アンケートをとるということは役に立つのではないかなと思う。

(中村議長)

基本、社会教育団体としてどう絡んでくるかということもあると思うが、もっとよく考えれば、結局、市民がどう評価するかということだから、今の本多委員のご意見は妥当だと思う。だから、そういう意見があれば、どんどん挙げていただくようなスタンスは非常にいいんじゃないかなということだと。

(本多委員)

小委員会でもそういう話が出た。

(中村議長)

はい。そういう話も出た。

(本多委員)

出た。

(中村議長)

では、樋口委員から、ご意見。

(樋口委員)

大体今のお話を聞いてわかった。

(中村議長)

よろしいか。

(原嶋副議長)

理想的には倉持委員がおっしゃったように、キャッチフレーズがある。あのキャッチフレーズ、「共に教え合い、学び合い」とあるのだけど、これを新たにつくるだけでも、多分1回か、2回か、何日かつくってやっていかななくてはいけない。本来はそのキャッチフレーズのもとに原則を作り、また細部への作成の流れとなるのだと思う。

(清水委員)

実は私もいただいたメールを見て、何を今日、検討してくればいいのか、よくわからなかった。唯一具体的な原嶋副議長の内容、これはこれとして見るとわかるのだが、これを見て、何を検討するのかなというのもわからない。というより、もともとアンケートをとるというあたりがぴんときてなかった。誰に対してアンケートをとって、どうまとめようとしているのか。そのまとめる結果は、理念、基本目標なんかを見直すことなのか、各評価の内容の項目を整理することなのか、全体の何をしようとしているかがわからない。そういう意味で、いただいた資料もどう読んでいいかわからないし、所属している団体、私、市民公募で来ているとすると、どの立場で意見を言うべきなのか。もちろん商工会にも関係しているし、この間、社会教育関係団体にも入っているが。ということで、要は今日の会議の趣旨が私にとっては全然理解できなかったという状態で今、この場に来ている。とりあえず、アンケートをとるのはどういうふうな方が。団体に送るアンケートなのか。一般市民は入ってこないのか。

(中村議長)

私から申し上げると結局、生涯学習推進計画というのは、もちろん市民あつてのことだと思うので、本来的には全市民からアンケートをとって集約するのが妥当な、一番理想的な考え方なわけだが、なかなかそうすると理想とはいえ、実際誰がどうやってその仕事をやるのかということもあるので、そういう意味で、各社会教育関係団体がある。公運審、それから図書館協議会等々、社会教育関係団体は、つまり、市民から成り立っているわけなので、その市民の声を集約した形の各審議会にまず依頼をする。市民から構成されている各種社会教育団体にアンケートをお願いする。つまり、それが市民の声の代表的なものであるという理解でスタートする。そういう考え方。

その中で、生涯学習推進計画にかかわる団体において、自分たちでやっておられる日々の行動がこの計画に照らし合わせてどうかと。その計画について、どういう意見を持っておられるか。その具体的な事業内容については、原嶋副議長がここに書いて、つくっていただいた各事業内容を日ごろの計画、日ごろの活動で社会教育推進計画はどうだと評価する。そういう考えでよろしい。

(清水委員)

この内容そのものを各団体の所属している人からチェックしてもらって。

(中村議長)

そうだ。各団体がかかわっている項目についてということ。例えば図書館審議会であれば、ブックスタートであるとか、読み聞かせであるとか、そういうのが事業内容であるわけ。それらの内容について、日ごろの活動と密接に関連するわけだから、どういうふうに評価するか。この具体的に書かれているブックスタートであるとか、読み聞かせが計画上どういうふうに評価するか。推進されてどう評価するか。そこをアンケートで。

(清水委員)

評価というと何を言っているのか。現状がいいということなのか、これからは、矢印がある。

(中村議長)

はい。

(清水委員)

あれは強化していくとか、現状維持だとか、見直しで廃止するだとかと、そういう意味の矢印か。

(中村議長)

ええ。

(清水委員)

その矢印のつけ方がいいかどうかを評価するのか。それとも……。

(中村議長)

それは、この矢印の関係については、市役所の中の部局で、市役所のほうで評価されているわけだ。それはそれとして1つの評価だと思うが、我々市民目線でその事業についてどういうふうに考えるか。実際、例えば矢印が横に行っているものはそのまま継続であって、斜めが推進である。それはあくまでも市役所内での評価だ。我々市民目線でどう評価するかということについて、今討議しているということだ。

(清水委員)

市民目線の評価を出してくれという依頼をするわけか。

(中村議長)

そうだ。そういうことだ。それに当たって、市民全員からアンケートをとるとするのは、

なかなか膨大な手間暇がかかって、誰がどうするかというお金の関係なんかもあるし、その辺があるので、一番その実態を反映しているところで、市民の声を集約された形での生涯学習課での審議会にそのアンケートをお送りして、答えていただきこうという趣旨である。

(清水委員)

そうすると、アンケートの中で、アンケートに回答があるんじゃないくて、アンケートは趣旨説明であって、実際は具体的な全项目的なものを挙げて、おたくはどう考えるかという問い方か。

(中村議長)

そうだ。だから、例えば2つの審議である公運審と図書館協議会についてはこちらで抜き書きしていただいているが、あとの各団体におかれては一旦、この計画というのは、各社会教育団体の方がまず読んでいただきたい。読んでいただいて、自分の団体がかかわっているところが当然幾つかあるはず。そこについてどう思うか。そういう趣旨なんだ。だから、これは、せっかく市役所のほうでつくっていただいているのがまだ周知されていない可能性もあるので、まずはこの計画に対する理解を深めていただくという意味で、例えばこの冊子を各団体に配布して、その後でコピーしていただいて、該当する方にまずは読んでいただいて、理解を深めた上で自分たちの団体にかかわるところの各事業において、どういうふうにこれまで計画を評価して、市民目線という趣旨。皆さんおわかりいただいたか。大丈夫か。

(清水委員)

出てきた結果はどう集約するのか。

(中村議長)

出てきた結果を集約して、要は社会教育第2次推進計画を評価しつつ、第3次の推進計画を策定する。

(清水委員)

分けると。

(中村議長)

はい。両方並行してやるということ。

(本多委員)

このアンケートをする評価と結果は、すぐには役に立たないかもしれない。第3次に向けて市民の意識付けすることで、次のときに評価の基準をどこに持っていきかができると思う。今回は結果を期待するということではなく、市民の人たちに、それぞれの所属団体の1部分のアンケートに問うことで意識が高まる。うちの場合は200人いるので、200人が意識づき、これができたら、ほかの団体に参加したときに、この団体の活動はどうか、思ったより参加人数が少ないんだとか、何年も続いた団体も、中のメンバ

一が同じということもある。そういう評価は誰もわからない。ちょっと細かいことですが、このように理解したのだが、よろしいだろうか。

(中村議長)

はい。おっしゃるとおりだ。小山田委員、ご意見どうぞ。

(小山田委員)

皆様のご意見を伺っていて、そのとおりというか、次の施策をつくるに当たって、それぞれの団体の自分たちの該当するところを実際に見ていただいて、この施策がどうかと、まだここにはないが、こういうことをしてほしいとか、こういうことがあったらいいなというように、もし意見とかが出てくれば、それは言えるかと思うので、あと、アンケートをとることで計画自体を知っていただくというのも1つの効果だと思うので、そういった設問でよいかとは思っています。

ならば、もしかしたら、質問用紙が長くなってしまふのかなとは思ったりしたが、この項目、ここに入っている項目を入れていって、それぞれ該当する団体の、自分たちの団体が該当するようなところをチェックしていただくということになるのかなとそのイメージしていたが、と思っている。

(中村議長)

石田委員、いかがか。

(石田委員)

私は今、ボランティア団体に所属しているので、主に幼児の教育とか、そういうのがガイド指針にあるので、ただ、これを会議の中に、また、社会教育委員をやった人間しかわかっていない、知らないということなので、こういうものがあるということを教えるために、会員にどうするのが一番いいのかなと思って、冊数があるなら一人一人に配って、きちんと読んできてくれと言って、次の月にアンケートとして配るということをしてやらないと、そのアンケートそのものも、会で収集、とれないかなとも思ったりしていますが、追伸のこのメールで送られてきた改正案のところだけ抜き出したのでは、多分意味がとれないなと思っている。だから、ちょっと母体団体にこのアンケートをとるときに、私は今どんな努力をしようかなと思って。どういう持っていき方をしたら一番、会のみみんなに理解ができるかということは今考えてはいる。

(中村議長)

石原課長、この冊子というのは

(石田委員)

ただ、あまり長くしないほうがいい。

(石原生涯学習課長)

100、200とかであればいい。それだと、先ほど本多委員も言われたように、1団体で全部使ってしまうような形になるので、皆さん方それぞれ100、200、それぞ

れの会員の方にお見せしたいというと、ホームページのほうにはあるんで、ちょっと乱暴なやり方になっちゃうんだが、ホームページで各自ごらんくださいということでは、なかなか皆さんに直接お見せできるものというのは行き渡らないのかなというところだ。
(石田委員)

ホームページからダウンロードして配ることは、できることは思うが、必要な部分だけ抜粋してもいいかなとも思いながら。ただ、ちょっとクラブの代表として出てきているので、そのくらいのことはして、クラブの中にこういうものがあるって、これに基づいて市が推進計画をしているんだということを徹底させる必要があるかなと思っている。これは、私個人的な立場の。

(原嶋副議長)

ダウンロードして、キャッチフレーズと大まかな計画と自分たちの関与するようなどころだけをコピーして、関係する方々にお配りしてということか。

(石田委員)

はい。それが一番徹底できるかなと思っているが。

(原嶋副議長)

この際、こういうふうには社会教育委員会もこういう形で動いている事を知っていただく必要があるのかもしれない。

(石田委員)

知らしめることが必要だと思う。

(本多委員)

ちょうどいい機会だと。

(石田委員)

思う。

(中村議長)

ですから、今、知らない方に対して、言い方は悪いんだが、啓蒙活動というところは、私はあると思う。そういう意味でどの程度まで把握するかというところがあるんだが、まずはこれを知っていただく、認識していただいて、日ごろの活動に照らしてどうなのかというのを考えていただくということが大事なんだ。その上で第3次をつくる上での足がかりにするというのが基本線だから。だから、ここの冊子は当然ないわけだから、ほとんどないわけだから、それをどういうふうに、何部ぐらい各団体に配布するとか、ホームページをダウンロードしてコピーするやり方もあるが、基本、ある程度何部かコピーしたものを各団体にお渡しするのが妥当じゃないかなとは思っている。全員にとというのはなかなか無理だと思う、物理的に。ご意見はそのあたり。

(石原生涯学習課長)

うちのほう、全くないわけではないので、有料で頒布しているものでもあるので、ちょ

っと皆さんに差し上げるということはできないのだが、意見を聴取するために必要な部数は、できる限り皆さん方に、各団体さんに数冊ずつお渡しさせていただいて、回覧していただいたりとか、役員の方とかは全体を把握できるような形に協力させていただきたいと思う。

(石田委員)

ちなみに、有料というのはお幾らで頒布しているのか。

(西田生涯学習部長)

高いのだ。1,200円。

(石田委員)

ちょっと高い。

(西田生涯学習部長)

買っていただくのは心苦しいので、お貸しすることになると思う。

(中村議長)

じゃ、それをできるだけたくさん貸与していただくということで。

(西田生涯学習部長)

そうだ。

(中村議長)

各団体に対してお願いしたいということで、そこはよろしいか。

あと、ヒアリングの内容だ。

(石田委員)

図書館と公民館に対しては、色分けしたことによって、とてもよくわかりやすいなと思ったんだが。

(中村議長)

原嶋副議長さんの。

(石田委員)

はい。最後に、各団体には所属している1から4までの項目についての自分たちの団体がどのところにかかわっているかということを確認で、そして、それに対する意見をいただければ、各団体に対してこの項目のこれと決める必要はないと思う。それこそ趣旨もいろいろなものを持っている団体なので。そうすると、それに該当するところのアンケートの仕分けができるんじゃないかと思う。

(中村議長)

私も同じ意見だ。賛成する。

(原嶋副議長)

私自身が出したのは、何かたたき台がないと話が進まないかなと思って出しただけで、どんどんたたいていただいて結構です。

(清水委員)

そのサンプルの見方だが、緑と赤とで色分けしているのはどうい

(原嶋副議長)

緑と赤は。

(中村議長)

緑が公民館で。

(原嶋副議長)

赤が図書館。

(清水委員)

そういう。

(原嶋副議長)

先ほど部長のほうからお話があったように、中心的にまずは聞いてみようじゃないかというこ

とで、公民館と図書館のほうの。

(清水委員)

公民館の場合、事業内容として、子供体験講座があって、それは水平矢印になっている例が書いてあるが、これは。

(中村議長)

それは市の評価が横だという。これは参考という形。

(清水委員)

横で、それに対して。

(中村議長)

実はこの体験講座に対して、図書館運営審議会で意見をいただく。

(清水委員)

意見を述べてもらうということを言っている。

(中村議長)

ええ。矢印というのは、市の評価をそのまま写して。

(清水委員)

それを上げて、それに対してご検討してもらおうというアンケートにするのか。

(中村議長)

はい。事業内容というのかな、子供体験講座とか、いろいろあります。だから、各団体に、皆さん出身母体の各団体におかれては、その辺はご自身で、ちょっと乱暴なんだが、ご判断いただければという趣旨だ。石田委員のご意見。それで皆さんよろしいだろうか。

(樹委員)

全ての事業内容について、そうやって各団体に、もちろん答えられるところと答えられないところとあると思うんだが、聞くということか。

(中村議長)

そうだ。全ての事業内容において、ご自身の所属されている団体がかかわっているところにおいてと。

(樹委員)

意見を聞くということか。

(中村議長)

はい。

(樹委員)

そうすると、ほんとうに膨大な量のアンケートになる。市から随意で送られてくるアンケートが我が家に来たことがあるが、膨大な量で、それを最後まで読むだけで大変で、送り返さなかったということがあるが、そういう1個1個の事業に対してやるというのであれば、今回いただいたメールの趣旨がちょっと違うのかなと。基本目標に対してどうなのかというのを問うというような趣旨でメールをいただいていたように私は理解したが、事業内容1個1個に対して問うのであれば、またそれはちょっと違うのかなと思う。

先ほど倉持委員が言ってくださった、例えば事業全体を見回しながら、その子育てに対する情報は皆さんにとって十分かというような聞き方であれば答えられると思うが、事業1個1個に対して聞くのであれば、すごい検討をする必要はない。

(中村議長)

1個1個でなしに、ちょっと申しわけないが、皆さん専門家でいらっしゃるから、審議している中で、ご自身の団体がかかわってくるというのは当然この事業内容でわかると思う。そこは各委員のほうで絞っていただいているんじゃないかというのが私の考えだ。

(樹委員)

でも、結局出てくるものは、手元に来るものは、全部のものが来るわけだね。答える側が絞るわけだ。

(中村議長)

そうだ。ただ、先ほど申した、これはしていただかないといけないことだから、これはこれでお配りするが、その中で項目選択というのは、できれば各社会教育委員のほうで。

(樹委員)

じゃ、こちらの手元でやるということか。

(中村議長)

そうだ。それが一番妥当かなと私は思う。全部が全部と、なかなかそれはできないと思う。的がぼやけるというか、何かちょっと……。

(樹委員)

それといただいたメールの趣旨と違うのかなど。基本目標に対してどうのということと、もっと具体的に今一つ一つの事業に対して、結局こちらが評価していく、市民が評価していくということじゃないか。でも、一つ一つの事業に対して自分たちがかかわっていることに対してだが、それをどう思うかということ、意見を述べていくということは、市民がその事業に対して評価をしていくということか。

(中村議長)

そうだ。

(樹委員)

そこを基本目標の評価につながっていく、つなげていくという作業はどうなっていくのだろうか。今回いただいたメールの趣旨というのは、基本目標を評価してくれということだ。なので、細かい事業を評価していくということを基本目標を評価していくというところにつなげていく方法がないと、単にこの事業はいいと思うとか、これは必要ないと思うとか、そういう意見だけの集約になっていくのかなと思うが。

(中村議長)

だから、例えば具体的な事業がある。それについての評価とあわせて自由アンケート方式じゃないが、大まかな考え方について、何かそういう各事業以外に、この計画について何かお考えがあればという質問の仕方はどうか。

(倉持委員)

評価と言ったときに、何を評価するかということと、何のために評価するかというのが2つあると思うが、事業評価という意味で言えば、行政のほうである意味数的なというか、客観的な評価をして、それが前回とかで示された、広大なリストになっているわけだが、これからお聞きする市民とか団体の皆さんは全ての事業にかかわっているわけではない。しかし、関心がある事業とかはあると思うが、そういう意味で客観性とか、数的な評価というのは求めているわけだ。じゃ、何をしようかということと多分、これは私の考えだが、今、小金井市の社会教育のどの部分が充実していて、あるいはどの部分が充実していなくて、次に社会教育計画を立てるときにどの部分をもっと充実していったらいいかというのを、活動者とか市民の目線で声をお聞きする。これまで小金井市の計画、生涯学習推進計画を立てるときに、その声というのは、ほとんど委員さんの声しか取り入れられてなかったんだが、それをもうちょっと実際活動している人たちとか、皆さんおっしゃるように、啓蒙的な意味も含めて戻していくことで少しそれをまた取り入れて、原嶋さんがおっしゃったように、それをさらにこちらでもう1回、分析して、計画の目標とか、キャッチとかというのに反映していきたい。そのための評価なんじゃないかなと思う。

そう考えると、もともとは4つの重点、基本目標というのがそもそもこういう基本目標

の立て方でいいのかというような議論もあってのこういう話だったかなというような気もする。ほかの市の例なんかを見ながら、もっと基本目標なんだから、向かっていく目標的なものを立てたほうがいいんじゃないかみたいな意見もあったりして、ここで伺った意見をもとに、実際の事業がどんなものが立つかというよりも、大きな枠組みとして、小金井市はこういうところに力を入れていこうとか、こういうところをもっとやっていったほうがいいんじゃないかと。そのために伺うみたいなどころがあるのかなと思う。

事業ベースで、事業名が書いてあったほうがわかりやすい委員さんや団体さんと、それだとちょっと、例えば月に1回ぐらいしか集まらない会合で皆さんの意見を聞いたりするのに、それだと皆さんモチベーションだったり、時間だったりがないから、大きな目標ごとに、例えば子供についてどうだと思うかとか、ここはどうやったらいいと思うかというように伺ったほうがいいようなところとあるんじゃないか。緻密に勉強なさっていたり、時間がわりと浸透しやすい団体さんなんかは、これを読んでもらうとか、事業ベースまで目を通してもらうというのもありだと思いが、その辺をきつとより意見を出しやすい、出してもらいやすいやり方というのが現実的にはよくて、緻密さを求めると、多分あまり言うとかくさん意見が出てこなくなっちゃうようなことがあったりすると思うので、限られた時間と労力の中でのなるべく次につながるような、この計画をたたき台として、次につながるような活動者から、あるいは市民からの意見を出してもらうということ言えば、あえてこの4つの目標を柱としながら、可能な団体さんは内容とか、事業とかというのも例示しながら、ご意見をいただくというのが現実的かなと思うが、どうか。

(石田委員)

いいと思う。

(中村議長)

いいご意見。

(本多委員)

大きく高くというのは、今、無理かもしれない。

(小山田委員)

量的なものはあまり期待せず、質的な、少なくとも内容を充実した感じで伺えるようなもののほうが、期間も短いと思う。

(中村議長)

清水委員、何かご意見は。

(清水委員)

まだよく見えない、何をしようとしているか。先ほど、結果とまとめが大変じゃないかということも非常に気になるし、聞かれたほうもどう答えていいか、何をコメントしていいかわからないんじゃないかなと。要はこの第2次計画を、第3次をつくらなきゃ

いけないという方向で今、動いているんだと思うが、真っさらから来るのじゃなくて、ある程度皆さんの意見を入れて、逆にここを聞きたいからこういうアンケートにしようとかでの的を絞ったほうがこれに反映しやすいんじゃないか。第3次というものをつくりやすい。あまりいろいろなデータを集めて、それをどうまとめるかで、そこから新しく基本理念をつくろうと、これも大変なことかなということがあって、むしろ皆さんに原嶋委員がたたき台をつくっていただいたように、むしろこの場面だけじゃなくてもいいが、もう少しこぢんまりした中で素案をつくって、その素案をつくる過程でどういう意見が多いんだろうとか、そういう議論をテーマにアンケートをつくってあげれば、まとめるという意味では楽かなという気がして、今のアンケートの問い方には非常に疑問が残る。

それから、もう一つ、これを知ってもらいたいという意味はわかるが、皆さんこれを知ってもらって何をしてもらいたいのか。基本理念を知ってもらいたいなのか、こういう事業が関連するようなものがあるということを知ってもらいたいのか。これを配って何を知らしてもらおうと思うかというところも疑問点である。

むしろこういうものをネットワークにしていく仕組みがほんとうは必要じゃないかということで、私なんかはこの会議に手を挙げさせていただいたが、いろいろな事業をやっているが、その中であまり関連がない。それぞればらばらにやっている。もう少し協調したり、関連がつけられると、もっといろいろな意味での効果が出てくるのかなと、そんな期待があってこの会に出るようにしたが、そういうことも手がかりにはなるのかもしれないが、これを知ってほしいって、どこを知ってほしいんだらうかと。

(石田委員)

結論として、第2次から第3次という目的を持ってこういうアンケートをとるということは、その中で自分たちが期待するものに対して、いずれは市の行政がそれに向かって進んでくれるということの意見の、諮問されたわけではないが、意見として申し立てるためなので、最終目的は、行政の予算がその中でこういう行事に対してどういうふうに使われるようになったかということが結論としていくためのステップの1つか2つでないかなと思う。だから、よりよい行政ということに最終目的は行くのではないだろうか。

(清水委員)

そうだと思う。

(石田委員)

はい。そのためには、小さなステップを2次から3次、3次から4次と、その都度、その年の委員が上がっていくということが積み重ねることの必要性ではないだろうか。それが目的として掲げられていいのではないだろうかと思う。

(原嶋副議長)

同じ意見だ。小さな意見を行政にお伝えするというか、橋渡しみたいな役を私たちはし

ているわけだから、僕らもいろいろ思考しながら市のほうにお伝えしているんだということだけでも、1つの啓発になっていくのかなと思う。

それと、原則の話があったが、まちづくりがあったり、教育委員会の方針が出てくると思う。合計で今度7年になる。その至る中で時代の変遷があって、求めるものが出てくるわけだから、その計画と、私たちが地道に意見を伺いながらのものをあわせながらつくっていかなくちゃいけないのではないかなとは思っている。

(倉持委員)

清水委員の言うことで1つ、そうかなと思ったことは、確かに計画自体ボリュームがあって、全てを各団体に網羅して意見をいただくというのは、結構なかなかハードルの高いお願いというか、皆さん各団体、そんなにしょっちゅう集まっている団体ばかりでもないと思うので、例えばこちらから、例えば本多委員さんの出身母体だったら、多彩な学習活動と市民についてスポットをこちらで絞って、その部分のご活動の実績なり、問題意識なり、もっとあったらいいと思うことなりを伺うとか、そういう絞り方も、あるいは共通質問みたいなもの、例えば子供のことはみんなで聞くとか、そういうのもあってもいいかもしれないが、網羅して、聞かないという手もあると言えばあるかなと、今のお話を伺って。公運審とか、図書館協議会はある程度網羅していただきながら、原嶋副議長がやっていただいたように各スポットもあるわけだが、それは皆さんにピックアップしていただくのは結構大変な作業なので、こちらで少し割り当ててもいいという考え方もあるかなと、思った。

(樋口委員)

先ほど倉持委員が言われたように、私はちょっと家で考えたときに、全体をとると、ただ、この例としていろいろつくってくださっているこの質問に関しては、私なんかも読んでいて答えられるが、実際に全部網羅してという形になると、まず、推進計画の16ページにこれだけあって、自分に関係あるのは特に子どもの健全育成、家庭、この部分だけだと思った。その上で、学校教育との連携のところを見たときに、連携できているかみたいな質問だけでは、実際何を問われているのかわからないし、この28ページにある、学校教育との連携を1から8まで落とすとしても、また、この中で全部1から8までではなく、特に聞きたい部分をピックアップするにしても、それでも、これはもうちょっと答えにくいかなと思う。そうすると、例えば教育内容と相談充実について29ページに書いてあるように、具体的に問わなければ。ここまで詳しくなくても、例えば図書館のほうに書いてくださっているのも比較的、文章が少なく、わかりやすい質問をしてくださっているので、そういうものならば答えていけると思う。でも、実際それを全体の団体の、また、この4つの基本目標に対してしようと思うと、かなりの量があるし、それを逆に端的な言葉にし過ぎると、質問に答えようがなかったりというふうに考えて、ちょっとそこら辺の部分で悩んできた。

(中村議長)

事務局のほうでご意見、西田部長、あるいは石原課長、ご意見をくれるか。

(西田生涯学習部長)

正直、生涯学習推進計画というのは、役所でやっている生涯学習に関連する事業を一覧的に、体系的にまとめたものであって、各個々の団体さんがやっている活動とかをまとめたものという観点とはちょっと違ったつくりになっているということで、イコール答えづらい。要は役所の理屈でまとまっているものだから、役所の理屈に沿って皆さんが活動しているわけではないので、絡んでいるところがどこからどこまでというのがわかりづらいというようなところもあるだろうし、全く絡んでいないんだけど、5%ぐらい絡んでいるかもしれない。そういうようなところもたくさん出てくると思う。子供も全く関係ないわけじゃないとか、学校も多少は絡んでいると。でも、これとこの聞き方で聞かれると何を答えていいかわからないとかというのは確かにあるんだろうと思う。だから、アンケート、私も今、ずっと聞いていて、どういうふうにまとめていくかというのは非常に難しいなと感じている。聞くほうも大変だし、まとめるほうも大変だし、聞かれているほうも大変だしというようなことになってしまいかねないということで、そういう意味で言うと、今まであまり市民の人にこの計画については知ってもらえてなかった。あるいは知らないがゆえに、評価もしてもらえてないわけだが、そののところに今度、3次以降、どういうふうにつなげていくかというような取っかかりをつくりたいというのもあるのかなと思う。市民参加で評価をしていくというための第3次の生涯学習推進計画ということになると、もうちょっと多分市民の目というのが入ってくるような形でのまとめ方になるのかなと思っている。そういうことで言うと、その試金石になるようなものがこのアンケートの位置づけなのかなと思っているが、どうもちょっと今の議論をお聞きしている限りでは、皆さんがまだ落ち込んでいる部分がないというような感じに受けとめていて、事務局でこうだということも、逆に言えば出せるものもないというようなところもあるんだが、これはどうか。5月の半ばに発送して、9月30日を回答期限とするというこのスケジュールで出していくという、今、熟度に達しているのかというのがちょっと気になるところ。

聞くのは、ばっと出せば返ってくるだろうが、何か成果があるものが戻ってくるのかどうかというのがちょっと見えなところが正直あって、そういう意味で言うと、今の予定だと26年の5月から団体への意見照会をして、9月に受け取って、10月から2月までかけて総括の評価と計画の素案の検討というのを中で行うことにしているが、はっきり分けている。要するに9月まで聞いて、その結果を受けて素案の検討とかに入ろうという形になっているが、この辺のところをもうちょっと工夫するなりして、例えばもうちょっとアンケートについては、もう1回ぐらいもんで、後ろにずらすんだが、最終的な素案の検討には影響を及ぼさないような形で、もう一度、スケジュールを考えて、

もう一度ぐらい考えたほうが、事務局でもちょっと考えなきゃいけないなというところは、皆様の意見もそうだが、ちょっと踏まえて何かお示しというか、たたき台になるようなものがつくれるのかどうかとか、そういうのも含めて検討する期間をとるというのも1つの案かなと。5月発送にこだわらないという意味だが、それもありかなという気がする。

(中村議長)

だから、拙速に進めて空疎な内容をヒアリングするよりも、時間をかけて熟議したほうが私はいいと思う。その中でぎりぎりのデッドラインというのがもうちょっと後ろでもいいんじゃないかなという気がする。今の論議をお聞きしていると、まだちょっとまとまり切れていないというか、方向性が見えていないというところはあろうかと思うので、事務局のほうでいわゆるデッドライン、今、どっちかというと早目に設定していると思う。

(西田生涯学習部長)

例えば図書館協議会と公運審に対してはスケジュールどおり聞くこと等も可能なような気がする。だから、それだけは早目に。公運審とかは毎月のようにやっているが、図書館協議会があまり回数がなかった様子なので。年3回。

(中村議長)

今、5回か。

(西田生涯学習部長)

5回。ほかにもやっていただきたいことがあるものだから、そういう意味で言うと、早目に投げたほうがいいという意味で言えば、図書館協議会と公運審だけは早目にこういう調査を出して、原嶋副議長がまとめていただいているような中身で出していただいて、そのほかの団体に関しては、もう1回、ちょっと全く同じことを聞く必要もないのかなという気もするので、スケジュールを精査する中でどうできるか、もうちょっと考ええるということはあるのかなというのは事務局的に思った。

(中村議長)

私も、今、西田部長がおっしゃったような、ちょっと切り分けて考える。2つの審議会とそれ以外の審議会というのは切り分けて考えたほうが良いように思う。皆さんご意見、いかがか。よろしいか。

(「異議なし」の声あり)

(中村議長)

では、石原課長のほうで、原嶋副議長がつくっていただいたのをもとに考えていただいでいいか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

それで、できれば今度の5月の三者合同の会議がある。そのときにもお渡しできるような、2つの審議会についてはそのイメージで考えて、それ以外の皆さんの出身母体のところについてはもうちょっと熟議するという方向性で皆さんいかがだろうか。よろしいか。

(「はい」の声あり)

(中村議長)

では、皆さんにおかれては、皆さんの出身母体の社会教育団体に対してヒアリング、アンケートの内容を皆さんにもう一度お考えいただいて、5月の会議でもう決めてしまうような形でいかがだろうか。よろしいか。

(西田生涯学習部長)

こういうふうに聞かれば答えられるなとかというのを考えていただければ、その中で着地点をあれでできるかと思うので、次回、そういう議論になればいいかなと思う。

(中村議長)

じゃ、各団体が答えられやすいような内容の質問を皆さん各自、お考えいただくような形でお願いします。では、この件はよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

(2) 平成26年度視察研修について

(中村議長)

では、審議1はこれで終わる。2の平成26年度視察研修について協議させていただく。先ほど原嶋副議長のほうからお話があったが、日程的にも7月25日の方向性でと小委員会のほうでは合意はいたしたが、最終結論はこの本会議になるので、まず日程的なもので、7月25日でよろしいかということと、あわせてどこを視察するかというところで、前回、小委員会のほうでは、コミュニティスクールの運営方法について見るために、例えば杉並あるいは三鷹、こちら先進地を候補地として挙げるのも1つの考え方かなということが出たが、ここで皆さん、別に小委員会の内容は決定事項ではないので、ご意見をいただければと。いかがだろうか。候補地としては、ほかに挙げたところでは市の清里山荘と、あと、武蔵野プレイスというのが候補地として挙げたが、皆さん、小委員会のメンバー以外の方でご意見おありだったら、ご遠慮なく。日程と候補地について、ご意見あるか。

(小山田委員)

コミュニティスクール、いいと思うが、三鷹とか杉並が出ていたが、小平も結構やっているようで、小平も候補案に候補として入れていただければと思った。

(中村議長)

小平は、何かつてはありますか。

(小山田委員)

はい。小平は幾つかやっているところだが、国分寺も2つほど、今始めているところはあるが、この近隣でもあるということで、ご紹介できるところはある。

(中村議長)

コミュニティスクールについてお話があるが、コミュニティスクールの見学という方向性でよろしいか。異議のある方はいらっしゃるか。大丈夫か。では、コミュニティスクールの場合、つてのおありの小山田委員と、それから原嶋副議長が杉並で校長先生をやっておられたので強力なこねがおりだと思うので、杉並区、あるいは小平、国分寺、そのあたりでと思うが、いかがか。よろしいか。どうしようか。杉並にするか、それとも小平、国分寺。受け入れの問題があるかと思うので、7月25日に受けていただけそうところが大事じゃないかなと思う。

(西田生涯学習部長)

多分この人数で移動するとなるとマイクロバスを使ってという形になるかと思うので、そういったものが駐車できるスペースがあるとか、そういう細かいことも最終的には絡んでくると思うので、そういう諸条件が合ったところで、25日ということが決定であれば、その中の1カ所、場合によっては2カ所行けるかもしれないが、いろいろなやり方を見たほうがいいということであれば、例えば2カ所見れるのであれば、それも1つの手かななんて、ちょっと事務的な。受け入れ方の問題もあるので、こっちの思うとおりにはできないかもしれないが、可能であればそういう方向性もおもしろいかなとは事務局では思っている。

(原嶋副議長)

7月25日は多分、夏休みに入っているから、対応してくださるかなと思う。もし杉並区にこだわってくだされば、アプローチはしてもいいが。どうぞ小山田委員の線で。こういうことは教育委員会指導室あたりと連携してやってくださるのか、個人的なつながりで行っていいのかわからないんだが。

(西田生涯学習部長)

基本的には、こちらでの視察なのでやるんだが、ある程度下話的に決まったら、指導室を通してやるような形になるのかなと思う。

(倉持委員)

今回、コミュニティスクールになった研修の目的というのがあって、これになったんじ

やないかと思うが、新しい計画を立てるに当たってもそうだし、近年、社会教育と学校教育の連携ということが非常に重要視されてきつつあって、小金井市も地域の力で学校をサポートするという中でやっている中で、私たちは社会教育委の社会教育側から、どんなにかわり方とか、サポートとかできるか、あるいはどんな関係をつなげるかということに勉強するために行くということなんじゃないかということ。そうなってくると、それを基準にどちらを選ぶというのもあると思うし、あるいは行った先でお話を伺う際にも、学校の側の方と地域の方の側と、あるいは社会教育側の方とどうつながっているのかとか、どう組織化しているのかとか、どう制度をつくっているのかとかという話も少し聞けるといいのかななんて思うし、そういうのが聞けるところというような意味で決めると私たちの学び、学校教育側ではなく、社会教育委員側として学べるというところは、こんなようなところかなと思ったりする。

(西田生涯学習部長)

今おっしゃられたとおりで、地域が学校に入っていくということをやっている中で、アプローチの仕方が大ざっぱに言うと2つあって、生涯学習、社会教育の観点からやっているというところと、学校教育の延長線上でやっているというところと2カ所ある。はっきり言うと両方見れるとおもしろいが、社会教育側がイニシアティブをとっているような場合だと、社会教育が主になるとこんなやり方があるんだなと。あるいは学校教育側がイニシアティブをとっているところというやり方があるんだな。どっちがいい悪いじゃないが、そういうものを両方知っておくというか、それは非常に今後こういう教育、小金井市がどっちをとるかというのは置いておいたとして、それは非常にいいものになると思う。ほんとうに2つ方向性があるみたいで、小金井市の場合は今のところ、学校が中心となってというようなところになっている。

(中村議長)

杉並の場合はどちらかというと社会教育が中心、地域の。

(原嶋副議長)

ほんとうにおっしゃった融合型になっている。今までは、校長先生が教育目標とか、教育改革をおろして、保護者にもお願いする。教育目標そのものも、校長先生と選ばれた、公募された方とか学識経験者とか関係の方々と話し合っただけで決めるということなので、いわゆる学校中心のものとは随分変わってきている形になっている。その改革が良いか、悪いかは、歴史が最終的には決めていくんだと思う。

(小山田委員)

多分小平は社会教育側からだ。地域の方たち主導で事業計画をつくって始めたというところはある。結構今幾つか、2つぐらいは思い浮かぶが、わりと皆さんいろいろなところから見学があるから、結構慣れていらっしゃるところがあって、冊子とか、説明用のものを用意されていてというところはあるので、いいかと思う。その後、小平に行った

というのもあるので、ちょっと伺ってみるということ是可以する。

(中村議長)

じゃ、お願いして。

(小山田委員)

はい。様子を。

(清水委員)

近いから。

(小山田委員)

両方行ければ一番いい。行けるんじゃないかなと思う。

(中村議長)

場所が小平だとすぐ行ける。

(小山田委員)

そうだ、小平は。

(中村議長)

バスを使えば移動も楽だから、小平と杉並で、できなくはない。

(小山田委員)

行けるんじゃないか。

(西田生涯学習部長)

無理すれば3つとも回れる。午前中から午後まで全部使って。

(清水委員)

話を聞くわけだ。そうしたら、3つはきついのではないかと。2つだ。

(原嶋副議長)

校長会長に聞いてもいいんだが僕が例えばアプローチして、今、一番頑張っているのはどこ、25日あいているところということで調整していただいて聞くこともできるが、最初にまず教育委員会がやってくれる？そうじゃなくて、まず、私的にできるところで。

(西田生涯学習部長)

できれば、原嶋副議長のついでで聞いているという最初は雰囲気をとっていただいて、ある程度固まってきた段階で、段階は踏まえなきゃいけないと思うんで、指導室経由でこういうことを考えているのでというのは一言言っておかないと。ほんとうにそこに決まればの話だが、あくまでも様子をうかがっているだけだという感じでやっていただければなど。

(原嶋副議長)

小山田さんもそうだが、私もちょっと。

(小山田委員)

はい。ちょっと様子をまずうかがってみて。

(原嶋副議長)

頑張ろう。

(小山田委員)

はい。

(中村議長)

では、杉並と小平の2カ所で、7月25日ということをお願いしたいと思う。7月25日に不参加の可能性のある委員の方はいらっしゃるか。バスの定員の関係があるので、あるいは乗車定員がある程度確保できないとバスが出ないそう。7月25日、だめだという方はいらっしゃるか。今いらっしゃる方は基本大丈夫だということによろしいか。

(「はい」の声あり)

(中村議長)

石原課長、済まない。バスのほうの段取りもお願いできるか。

(石原生涯学習課長)

確認する。

(3) その他

ア 第5ブロック研修会について

(中村議長)

では、協議事項の2は終わって、その他ということで、協議事項3は、事務局のほうから何かあるか。

(石原生涯学習課長)

先日、都市社連協に関することなんだが、第5ブロックの幹事市になったので、大体秋ごろをめどに、第5ブロックの構成市を集めて研修会の開催というのを検討していく必要があるということで、まずは全体的にそういったものがあるんだということを知っておいていただければということである。

(中村議長)

それと第5ブロックの研修会だが、場所を確保しないといけないと思う。結構人数が多くなるので、素案としては貫井北町センターを考えている。そこも結構一般の予約とかも入るとあれなので、まず、その辺の空きぐあいもあるし、あと、近隣市との兼ね合いもあるので、日程をまず早目に決めていただいて、それで場所を確保しないといけない。その辺を事務局のほうでお願いできるか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

第5ブロックのほかの市の事務局とお話しただいて、日にちを決めていただくということ、貫井北町の場所確保で、第5ブロックの研修会については、これは私の素案だが、こけら落としになった貫井北町センターでやるのが一番タイムリーかなと思うが、ほかにもっといいところがあれば、各委員のほうからお話しただければと思う。あるか。ご異議なければ、もう北町センターで。場所的にキャパシティーの問題はどうかなというのがあるが、小さいところにたくさん入るほうがにぎわっているなという感じがあるので、そういうところで。あそこは、北町ホールがあるが、そこだったらわりと入るんじゃないか。

(樹委員)

70人。

(中村議長)

大丈夫か。たしか土曜日だったか、大体11月の。

(石原生涯学習課長)

でも、そうでもないみたいだ。月曜日にやっているところもある。

(中村議長)

ちなみに、去年は11月2日の土曜日だった。

(石原生涯学習課長)

そうだ。

(中村議長)

日程でもう押さえてもいいんじゃないか。

(石原生涯学習課長)

他のブロックは、土曜日にやるところが多いようではある。

(中村議長)

土曜日だが、よろしいか。ほかの市よりも、我々が参加率100%ぐらいでやらないと、まとまっていかないと。

(石原生涯学習課長)

土曜日の空き状況とかを見た上で候補地を出させていただく。

(中村議長)

もうある程度仮押さえしてもいいんじゃないかなと思う。場所をとれないとできない。おそらく11月の第1週の土曜日。

(原嶋副議長)

公民館の稼働状態とか、いろいろあると思う。

(中村議長)

その辺も。

(西田生涯学習部長)

11月2日という決め打ちはまだできる状態でないんで。

(中村議長)

もちろん。それは近隣市とか、あと、空きぐあいもあるし、各委員さんの都合もあるから。

(西田生涯学習部長)

事務局側の事情もあるかもしれないので、11月はいい時期なので、いろいろ行事が入っちゃっている可能性があるから、確認させてもらって。

(中村議長)

その辺をちょっと早目にすり合わせていただいて、1つだけじゃなしに、幾つか候補を挙げていただいて。

(西田生涯学習部長)

平日も含めて幾つか候補という形になると思う。

(原嶋副議長)

センターを候補地だと思っても、2時間のスケジュールというか、内容だね。施設見学だけで2時間というわけにいかないから、それは皆さんにこういうのがいいんじゃないかというのをお考えいただいたほうがいい。

(中村議長)

それについてはちょっと素案があって、どういうふうにしてこのNPOが立ち上がって、どういうふうに運営されているか、その辺のところ、施設の中身よりも、どういう経緯でここができたのかというところを中心に、NPOの話とか。

(石原生涯学習課長)

あと、大体ほかのブロックなんかの傾向を見ても、話を聞いて終わりではなくて、その後に、それを受けて皆さん方、どう考えるかという意見交換を含めての講演会というような体裁にしているようなので、そのあたりも聞いたり。

(中村議長)

お願いします。

(原嶋副議長)

お集まりいただくんだから、内容を充実したほうがいい。

(倉持委員)

第5ブロックは、ここ最近では3市ぐらいから事例発表、テーマを決めてそれぞれの市からして、昨年度はたまたま演技形式だけど、あれは、調布市さんはいつもプロの先生がいらっしゃるんで、刺激的な研修会だが、それ以外のときは、どちらかというテーマを定めて、お互いの実践を聞き合って、それをベースにディスカッションする。こういう他のブロックに比べてかなり活発にやる。あれはおもしろいと思うので。

(本多委員)

そう、おやじグループが出た第5ブロックもあった。

(倉持委員)

いろいろ当事者が出てきてくださったり、団体さんが来てくださったりして、おもしろいね。

(本多委員)

小金井も何かしたい。

(倉持委員)

そうだ。小金井も何か1つ。

(倉持委員)

おもしろいものやったださっている。

(中村議長)

この辺の内容の中身の精査も、これから秋にかけていろいろなことと並行してやっけないといけないと思うので、そのあたりも、どういうふうに運営していくかについて、ご意見を固めていただければと思うので。それと、小山田委員、ご用事があるということ。

(小山田委員)

宿題をいただいたので、帰って・・・。

(小山田委員退席)

イ 平成26年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について

(中村議長)

それと、この前の定期総会、4月19日に行われたことの概要を報告させていただくと、第5ブロックの研修会の幹事が小金井になったということと、あわせてもう一つ、会計監査というお役目もいただいたので、会計監査については、町田とあわせて2市が会計監査のお役目に当たることになったということだ。あと、例年同様に、社会教育委員表彰ということが行われた。そして、25年度の事業報告、会計報告もあったし、逆にまた、26年度の事業計画、収支支出予算について、それから、26年度役員についてということで話し合った。26年度の役員について、小金井が第5ブロックの幹事であり、会計監査も兼ねるというお役目をいただいた。以上、議長報告である。その他、ほかに協議事項はないか。大丈夫か。

(西田生涯学習部長)

事務局からはない。

2 報告事項

(1) 平成26年度予算概要について

(中村議長)

では、報告事項1、お願いできるか。平成26年度予算概要について、お願いします。

(西田生涯学習部長)

口頭にてご報告させていただく。平成26年度予算は第3次行財政改革大綱や社会経済情勢等の視点からの行財政運営、行財政資源の選択と集中、コスト意識、経営感覚の向上などを基軸として市民サービスの充実、増進を図りながらも、危機的な財政状況であるという認識のもとに編成された。こうした中、市全体の予算規模は、約570億円と対前年度比約6億7,700万円の減という形になっている。歳出について、概要を報告させていただくが、教育費全体では36億3,413万3,000円、対前年度比約5.88億円の減となっている。減となった主な要因は社会教育費であり、社会教育費全体で7億8,947万7,000円、対前年度比約5.74億円の減、保健体育費で3億3,042万5,000円、対前年度比約1.1億円の減となった。この内訳としては、主に今年の4月1日に開設された貫井北センター建設工事にかかる経費や、事業が25年度に終了したスポーツ祭東京2013の事業費が皆減した、全てなくなってしまったというもので減になったものである。また、今年度の新規事業としては、生涯学習課関連ではチャレンジデー事業、文化財保存事業、図書館及び公民館では貫井北センター運営に関する諸経費として、運営に関する経費や図書購入費がある。説明は以上である。

(中村議長)

ありがとう。この件について、皆さんご質問ないだろうか。予算概要について、ないか。

(「なし」の声あり)

(中村議長)

ご意見ないようだったら、続けて報告2、平成26年第1回市議会報告。事務局からお願いします。

(2) 平成26年度第1回市議会報告

(西田生涯学習部長)

それでは、引き続き生涯学習部長から報告事項ということで申し上げます。主に5つあって、1つ目が議案関係である。生涯学習課が議案を出している。まず、議案第28号ということで、小金井市立清里山荘の指定管理者の指定について、同じく議案第29号ということで、小金井市総合体育館及び小金井市栗山公園健康運動センターの指定管理者の選定についてというような形でなっている。いずれも前期5年間の指定期間が3月31日に満了いたすので、小金井市指定管理者選定委員会への諮問・答申、2月18日の教育委員会での市長提案の決定を経て、3月7日の厚生文教委員会、3月24日の本会

議で可決をしている。2つ目は一般質問である。2月23日、日曜日に、日曜議会というものが開かれた。市長の施政方針に対する質問という形でやったが、生涯学習部の関連では市民協働に関する全般的なものについての質問が1人、生涯学習課に関連して、小金井桜、チャレンジデーに関する質問がお2人の方からあった。そのほかにも、通常の一般質問というものも行われて、生涯学習部に関しては、生涯学習課に関連して3人の方から質問をいただいた。健康づくり、放課後の居場所づくり、小・中学校の土曜日活用というような形である。3番目は厚生文教委員会の関係だが、先ほどの議案の審査のほか、公民館から貫井北センターの進捗状況についてということで、4月1日オープンするというような内容の行政報告を行っている。

それから、平成25年度の補正予算というものがあつた。こちらは、生涯学習部関係は、歳出では社会教育費全体で7,641万1,000円の減、保健体育費で2,331万3,000円の減ということで、主に契約差金、未執行の事業、人件費の調整といった最終補正としての整理を行ったものであり、可決をされている。5番目は先ほど申し上げた当初予算で、新年度予算は起立多数可決をされたという形になっている。

平成26年第1回定例会の報告は以上とさせていただきます。

(中村議長)

ありがとうございます。この件について、ご質問ないか。

(「なし」の声あり)

(中村議長)

ご質問ないようだったら、2は終了し、3番、平成26年度スポーツ関係団体への補助金交付について、事務局から願います。

(3) 平成26年度スポーツ関係団体への補助金交付について

(石原生涯学習課長)

こちらについては4月17日に、補助金交付について、小委員会において一定の補助金交付を執行する方向性のご確認をいただいたものである。こちらについては、年度当初に交付する必要があることから、4月17日の小委員会において一定の方向性を示させていただいたものである。内容については、公益財団法人小金井市体育協会への補助金、2番目として、NPO法人黄金井倶楽部への補助金の以上2件である。主に内容についてはほぼ昨年並みとなっているが、公益財団法人小金井市体育協会については、一定職員の処遇改善ということで人件費の補助を増額させていただいているところである。

ご報告は以上だ。

(中村議長)

ありがとうございます。この件について、各委員のほうからご意見、ご質問等はないか。

(「なし」の声あり)

(中村議長)

なければ、ご承認いただいたということで、議題3は終わらせていただく。続いて報告事項4、貫井北センターの開設について、事務局からお願いします。

(4) 貫井北センターの開設について

(前島公民館長)

では、口頭でご報告させていただく。貫井北センターの開設についてである。4月1日の貫井北センター開設記念式典、また、4月6日の開設記念イベントを開催している。

お越しいただいた委員の皆様には、この場をかりて感謝申し上げます。北町センターの公民館部分については、4月16日からの貸し出しとなっている。4月20日からは公共施設予約システムでの7月分の予約を開始しているところである。図書館については、一般貸し出しを当初から行っているところである。具体的な運用の状況については、始まったばかりなので、4月末ごろに一定、集約するつもりではあるが、16日の一般貸し出し開始のときには、団体登録の方々が朝から行列で並んでいたというようなことも聞いている。また機会があったら、ご報告させていただきたいと思っている。企画実行委員の募集を今後、5月15日号の市報で行い、7月21日、これは他の分館と同じだが、7月21日より新たな企画実行委員の皆様で企画していくというような予定となっている。

簡単だが、貫井北センターの現在の状況ということでご報告をさせていただく。以上だ。

(中村議長)

ありがとうございます。各委員のほうから、ご質問等ないだろうか。私のほうから質問。今、利用が、行列ができるようなということで、かなり盛況だと思うが、実際もうかなりとれなかつたりとかいうことだとか。

(前島公民館長)

そうだ。ただ、登録者の方は大変多いが、実際の稼働率となるとまだ集計できていないのだが、まだ結局、公共施設予約システムのほうが使えていない状態で、手で電卓で、押さえているという形なので、まだそこまでの稼働率にはなっていないようだ。どこかの機会でお伝えしたいと思うので、よろしくお願いします。

(中村議長)

ということは、まだどういう団体が利用しているかというのも、まだ手作業でやっている関係でなかなか把握しづらいようなことか。

(前島公民館長)

そのとおりで、まだこれから集計という形になろうかと思う。

(中村議長)

あと、もう1点お尋ね。NPOと共同運営ということだが、その辺はうまくいっているか。

(前島公民館長)

今のところ、うまくいっているという認識でいる。ただ、細かいところで調整が必要な部分というのはこれからも多く出てくるかと思うが、また実際に皆様方が使っていただくようにどんどんなっていくと、また新たな課題とか、そういうのも出てくると思うので、そういったものはNPOのほうと調整しながら、他の分館と同じく、またさらに個性的な何かができるようなほうでバックアップをさせていただきたいなと思っている。

(中村議長)

ありがとう。では、図書館のほうからあるか。

(上石図書館長)

4月1日のセレモニー後、12時から貸し出しを開始した。初日ということで期待しながら、お待たせしていたので、かなり多くの方がいらっしゃるなど予想をしていたが、予想以上の貸し出しや登録者数の方がおられた。ちなみに、初日の貸し出しの利用者数が421名で、貸し出し冊数が2,164冊だ。登録者数が90名の方が登録されたので、こちらのほうは予想以上だったので、うれしい悲鳴をNPO職員は上げていた。その後も、春休みの期間のオープンということで、お子様が多く来られたのかなど。あと、毎日、日報を上げていただいている、特に大きな事故もなく、今まできている。順調な取り組みとなっている。以上だ。

(中村議長)

ありがとう。紙の書籍はもちろんたくさん拝見したが、電子書籍は、今はもう入っているのか。

(上石図書館長)

まだだ。当初予定、市民検討委員会のほうでも、そういったことは、ご要望があったが、予算的にもつかなかったということで。

(中村議長)

ということは、予算がついてないということは今後入れる、予算がつかないと入れないと解釈していいか。

(上石図書館長)

今後の課題ということで、紙の書籍のほうもまだまだ、蔵書収容冊数の8割、4万冊ちょっとでオープンしているので、そして、また利用が多いということで、今、図書館の貫井北分室に行かれると、がらがらということで、そういったお声もいただいているの

で、まだまだ紙の書籍のほうの充実を今後ともしていくということだと思ふ。

(中村議長)

皆さんのほうから、ご質問とか、ご意見はないか。よろしいか。

(「なし」の声あり)

(中村議長)

ありがとう。それでは、4を終わって、報告5、図書館の蔵書点検について、お願いする。

(5) 図書館の蔵書点検について

(上石図書館長)

図書館長のほうから、口頭でご報告する。図書館では毎年、蔵書資料の的確な把握を行うため、特別休館をさせていただいて蔵書点検というものを実施している。今年度は本館、西之台会館図書室、移動図書館車を2月17日から2月25日、東分室及び緑分室を3月10日から13日にかけて蔵書点検を実施した。貸し出しを含む全蔵書数が48万872冊あったが、うち貸し出しを除いた全資料を点検した。点検冊数は37万7,932冊で、貸し出しされていないにもかかわらず、所在が不明な図書は777冊であった。不明図書率は0.16%で、前回の平成24年度実施の蔵書点検では、不明図書1,450冊で、不明図書率0.32%だったので、不明図書冊数及び不明図書率とも減少した。報告は以上になる。

(中村議長)

ありがとう。ご質問等ないだろうか。よろしいか。

(「なし」の声あり)

(6) その他

(中村議長)

報告事項6、その他で、事務局のほうからあるか。

(石原生涯学習課長)

ない。

(西田生涯学習部長)

ない。

ア 放課後子どもプラン運営委員会について

(中村議長)

放課後子どもプランの件で、樹委員。

(樹委員)

平成25年度の最後の第6回放課後子どもプラン運営委員会が平成26年2月21日、小金井第二小学校、今日、ご欠席ではあるが、宗像先生のいらっしゃる学校で開催され、実際に放課後子ども教室をやっている様子を拝見させていただいた。この日は、第二小学校はバレーボールをやっており、バレーボール経験者のお母さんたちが子供たちにレシーブとか、トスとか、いろいろ教えながら、ほんとうに楽しそうに活動をしている姿が大変にほほ笑ましく、また途中から高学年の方たちがどんどん加わってきて、人数が増えた段階では試合形式もできるということで、有意義に行われていることがわかった。また、図書室の一部を放課後子ども教室の作品を展示するために開放してくださっているということで、学校側からも大変な協力を得ているということが推進委員長の方からお話があって、また、そういうところも見させていただいた。あと、各学校の進捗状況ということで、第一小学校から9校全ての小学校が若干インフルエンザとか、冬の時期に雪とかがあったので中止の事業も少々出たようではあるが、順調に進んでいるという報告があった。以上だ。

(中村議長)

ありがとう。皆さんのほうから、ご質問等ないか。放課後子どもプラン、ないか。

(「なし」の声あり)

(中村議長)

ありがとう。石田委員のほうは特にないか。

(石田委員)

はい。

(中村議長)

ほかに、各委員のほうから、ご意見とかないか。なければ、一旦、この録音は中止させて。どうもお忙しいところ、ありがとう。 以上

